

調査・研修報告書（議員用）

報告者： 前田 智永

<p>実施場所：桜花の郷 ラ・フォーレ庄原</p>	<p>実施日：令和4年7月30日～31日</p>
<p><b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b>          中山間地域という共通の環境下にある県内外の議員という立場の方々とともに、問題課題について向き合い、学び、まちを盛り上げたい。庄原市議会としても過去に講師として関わって頂いた土山先生の評判は多々伺っており、議員としての知識や技術を向上させたい。</p>	
<p><b>■参考とすべき事項</b>          市民と議会の間にあるのは無理解である。1200人のオンライン調査では地方議会が何をしているかわからない、49.1%。地方議員が何をしているかわからない、52.3%。          調査に協力する段階で意識の高い方々だと予想されるが、この数字。自治体は目的達成するために政策や条例で整理する仕組みをつくる。必要不可欠なものを賄うために強制的に市民から集められる税金をつかうため、必要不可欠以上は無駄遣いとされる。問題が大きくなり過ぎる前に手を打つことが現代の課題。政策に正解はないが、決断しなければならず、最終決断は議会である。          議会で発言することは議員の権利であり、まちをよくしたい、課題解決したい、そのための問題提起をするために一般質問という場がある。          残念な一般質問をしないために、論点は絞る。公表数字を確認するだけ、論点の入れ過ぎでぼける、隣の芝生は青い論、市が関知出来ない国県の政策や事業について、自身の政治信条の演説に終始する、一問一答するうちに混乱する、このような質問が残念な質問。          一般質問の組み立てとして、膨らみがちな論点を整理する。事実と分析に耐えられる主張か。熟語を使わない等、子どもにもわかる言葉でするとよい。          他市町の事例は大変参考になった。</p>	
<p><b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b>          議会の広報を積極的に。議員のファンをつくる、傍聴者に通信簿投票してもらおう、委員会での会議はホワイトボードやポストイットに書く、委員会活動を活発にし、一般質問で委員会総意として行う、会派党派よりも委員会を活発にすべき。子ども議会として中学生の親子と関わる。というような議会改革の事例は大変興味深く、本市議会にも取り入れられる可能性もあり、市民と議会の間にある無理解に対策をするために大切だと感じた。</p>	